

# ネット・セキュリティにおける不安の構造

関谷直也† 橋元良明‡ 小笠原盛浩‡ 中村功† 高橋克巳 間形文彦 山本太郎 千葉直子

†東洋大学社会学部

112-8606 文京区白山 5-28-20

naoya@soc.toyo.ac.jp

‡東京大学大学院情報学環

113-0033 文京区本郷 7-3-1

NTT 情報流通プラットフォーム研究所

180-8585 東京都武蔵野市緑町 3-9-11

**あらまし** 本研究では、ネットセキュリティに関する不安の構造をアンケート調査に基づいて分析した。基本的にネットに関するさまざまな不安は強く関連している。30代、男性、高学歴ほど不安が低い傾向がある。中でも、ネットショッピングやネットオークションにおいて強く人々は不安を感じている。情報化への不安という価値観が大きく不安に関連していることが明らかとなった。

## A Survey Study on the Psychology of the Network Security

Naoya SEKIYA†, Yoshiaki HASHIMOTO‡, Morihiro OGASAHARA‡, Isao NAKAMURA†, Katsumi TAKAHASHI, Fumihiko MAGATA, Taro YAMAMOTO, and Naoko CHIBA

†Toyo University, Faculty of Sociology, 5-8-20 Hakusan Bunkyo-Ku Tokyo, 112-8606

‡The University of Tokyo Interfaculty Initiative in Information Studies, 7-3-1 Hongo Bunkyo-Ku Tokyo, 113-0033

NTT Information Sharing Platform Laboratories, 3-9-11 Midori-cho Musashino-Shi Tokyo, 180-8585

**Abstract** . This article describes structure of anxiety of the network security. The results showed as follows. 1) Various anxiety of network security were strongly-correlated. 2) Men, People in their 30's, and highly-educated people didn't feel strong anxiety. 3) People felt strong anxiety about auction and shopping on the net. 4) Worry about information-driven society were strongly-correlated with anxiety of network security.

## 1 はじめに

東京大学大学院情報学環・東洋大学社会学部とNTT 情報流通プラットフォーム研究所による研究グループは、インターネット利用に対する不安意識の実態や不安の構造について分析するため、首都圏でアンケート調査を実施した。

本論では、当該調査で得られたネットセキュリティに関する不安の概要、特徴を示し、関連する情報化に関連する価値観との関係性を分析し、ネットセキュリティの不安の構造を示すことを目的とする。

## 2 調査方法

本調査の方法は以下のとおりである。

- ・調査対象：東京 23 区在住 15 歳以上 69 歳以下の男女 500 人
- ・抽出方法：東京 23 区内の総人口比にもとづいて性×年齢層別（12 セル）に必要な標本数を算出し、各地点の必要標本数（20 標本）を性・年齢層別に割り当て、各調査地点では調査員がエリアサンプリングで標本を抽出した。
- ・調査実施期間：2009 年 1 月
- ・調査方法：調査員による訪問留置訪問回収

### 3 ネット関連イメージ

人々はインターネットにどのようなイメージを持っているであろうか。ホームページ、メール、SNS(mixi など)、ネットショッピング・ネットオークションについて、「便利」「楽しい」「難しい」「簡単」「こわい」「不安」「安心」「あやしい」「めんどろ」「やめられない」「リラックス」「緊張」「危険」「安全」「その言葉は知らない」という 15 項目について複数回答を許し回答を得た。

次に、この 15 項目について最尤法(プロマックス回転)に基づく因子分析を行ったところ、15 の項目によって構成される 5 つの因子、因子1:「こわい」因子(「こわい」「危険」「不安」「あやしい」「緊張」「難しい」)、因子 2:「便利」因子(「便利」)、因子 3:「楽しい」因子(「楽しい」「簡単」「やめられない」「リラックス」)、因子 4:「知らない」因子(「知らない」「めんどろ」)、因子 5:「安心」因子(「安心」「安全」)に分けることができた(表 3.1)。

因子毎に単純集計を示し(図 3.1)、そしてホームページ、メール、SNS(mixi など)、ネットショッピング・ネットオークションそれぞれについて各因子に該当する項目の回答数を単純に加算し、合計をそれぞれ 10 点分として換算した(たとえば因子 1 ならば、6 点満点となるので、これを 10 点満点になるように換算した)(図 3.2)。

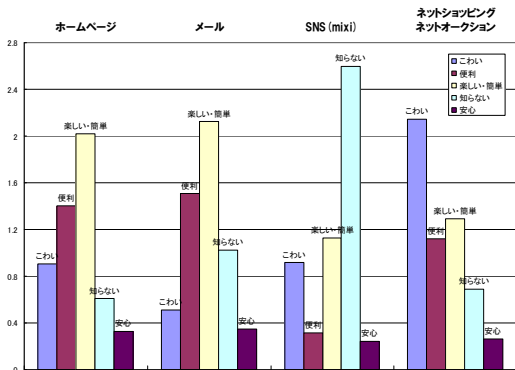
ここから傾向を分析すると次のような特徴が見えてくる。ホームページ、メール、SNS(mixi など)、ネットショッピング・ネットオークションすべてにおいて「安心」という項目群についての得点が低い。ネット関連のアプリケーションやサービスにおいて安心というイメージはほとんどないようである。ホームページ、メールは「便利さ」の項目、「楽しい」「簡単」という項目群

で得点が高い。SNS は「便利さ」の項目で低く、「知らない」「面倒」という項目で得点が高い。ネットショッピング・ネットオークションは「こわい」の項目群で得点が高い。

まとめれば、基本的にインターネットは「便利」であり「楽しい」。しかしながらネットオークション・ネットショッピングは「こわい」、不安というイメージが強く、SNS は「知らない」人が多い、というイメージを持たれていることがわかる。

表 3.1 ネットイメージの因子分析

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
	こわい	便利	楽しい	知らない	安心・安全
因子1  こわい	0.5737	-0.0067	0.0650	0.0525	-0.0267
危険	0.5311	0.0225	-0.0112	0.0113	-0.0065
不安	0.5165	-0.0058	-0.0549	-0.0444	0.0016
あやしい	0.5107	-0.0524	-0.0040	-0.0560	0.0009
緊張	0.2113	0.0471	0.0857	0.0591	0.0500
難しい	0.1965	-0.0317	-0.1019	-0.0941	0.0254
因子2  便利	-0.0305	0.9955	-0.0579	-0.0452	-0.0016
因子3  楽しい	-0.0582	-0.0641	0.7263	-0.0664	-0.0832
簡単	0.0050	0.1456	0.3154	-0.0098	0.1111
やめられない	0.0731	0.0410	0.3114	0.0459	0.0917
リラックス	-0.0132	-0.0778	0.2832	-0.0048	0.0896
因子4  知らない	-0.0421	-0.0568	-0.0658	0.9008	0.0124
面倒	0.0632	0.3049	0.1581	0.3267	-0.0485
因子5  安心	-0.0168	-0.0161	0.0406	-0.0111	0.7426
安全	0.0212	0.0058	0.0395	0.0099	0.5426
固有値	2.295	2.032	1.304	1.128	1.026
累積固有値 (%)	15.300	28.847	37.543	45.060	51.898



表注 各因子に該当する項目の総和を 10 点分に換算

図 3.2 ネット関連イメージ(因子毎単純集計)

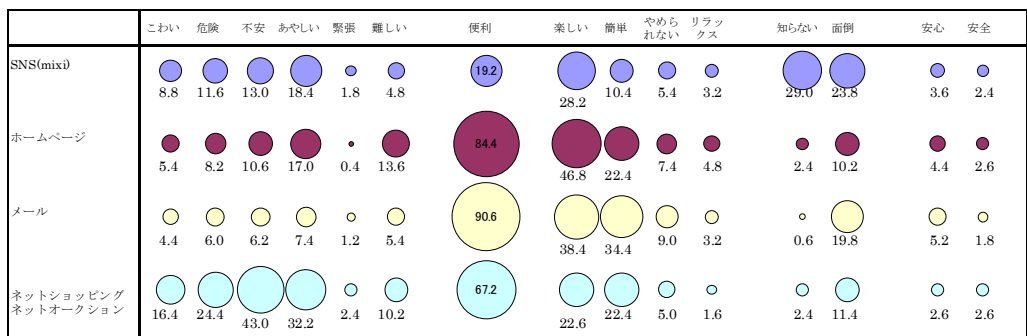


図 3.1 ネット関連イメージ(%、単純集計 N=500)

## 4 不安の構造

次にインターネットに関わる不安の総体的特徴を分析する。本調査で問うた (1)インターネットを利用して起こりうるトラブルに関する不安 (表 4.1 問 15)、(2)掲示板、ブログ、SNSなどでコミュニケーションを行うときに起こるかもしれないトラブルについての不安 (表 4.1 問 16、問 17)、それぞれで因子分析を行った。なお、全てを投入して一つの因子分析を行っても、全く同じ項目から同じ因子が抽出されるため(1)と(2)に分けて別々に因子分析を行った。

これら質問項目は基本的には異なるトラブルについての不安について聞いたものであるが、実際にこれらの項目はもともと相関関係が強い(相関係数が高い)。そのため、結果として抽出される因子も独立性を仮定することは

適切ではない。このため、直行性を仮定しない斜交回転(プロマックス回転)を用い、これに統計的に相性のよい最尤法を用いた(表 4.2)。

第1因子は、ワンクリック詐欺、架空請求、フィッシング詐欺、クレジットカードの悪用、高額請求などの項目に対し負荷量が高く、「金銭リスク不安因子」とした。

第2因子は、電波が悪くネットが繋がらない、電池切れでネットが繋がらない、シ

私的流用の一環、情報漏えいにつながるとして懲戒の対象になる場合もあり、倫理的には

システムトラブルでネットが繋がらない、故障でネットが使えない、通信速度が遅くてイライラする、操作を間違えるといったハード上のトラブルなどの項目に対し負荷量が高いので「ハードトラブル不安因子」とした。

第3因子は、メールが相手に届かない、メールの宛先を間違える、メールの返信がない、伝えたい内容が誤解される、メールを盗み見される、迷惑メールが大量に届くといった項目に対し負荷量が高いので「メール関連トラブル不安因子」とした。

第4因子は、出会い系サイト、プロフサイトにより犯罪被害に遭うという項目に対し負荷量が高いので「犯罪不安因子」とした。また勤務中・授業中に私的にネットを利用して注意されるといったことに対しても負荷量が高いが、勤務での私的利用は企業によっては企業経費の

表 4.1 ネット不安についての質問項目(単純集計 %)

問15	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
(ア) 利用料金請求額が予想以上に高額	44.8	33.4	16.8	4.2
(イ) 金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる(フィッシング詐欺)	57.0	24.8	13.8	3.6
(ウ) 画像やリンクをクリックしただけで、利用料金を請求される(ワンクリック)	54.8	29.8	11.2	3.4
(エ) 利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される(架空請求)	54.6	27.4	12.8	4.4
(オ) 支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される	63.6	26.6	7.2	1.6
(カ) 購入・落札した品物が届かない	52.2	35.4	9.2	2.2
(キ) 届いた品物の状態が悪かったり、思っていたものと違う	43.4	45.8	7.4	2.4
(ク) メール宛先を間違える	28.4	40.8	25.8	4.0
(ケ) 送ったはずのメールが相手に届かない	25.6	41.2	27.2	5.0
(コ) メールの内容を盗み見される	33.4	36.0	25.2	4.4
(サ) メール返信がない	21.4	38.0	30.4	9.2
(シ) メールやチャット等で伝えたいことが誤解される	25.6	44.4	24.2	4.8
(ス) 悪質な必要のない迷惑メール・迷惑コメントが大量に届く	44.8	35.2	14.4	4.6
(セ) ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う	51.8	36.8	8.0	2.4
(ソ) パソコンやUSBメモリを紛失して、会社の機密情報が漏えいしてしまう	49.8	29.2	14.4	5.6
(タ) 自分がどのようなサイトを見ているかを他人に知られてしまう	27.8	37.0	27.4	6.6
(チ) ネットサービスを利用して、パソコン・携帯電話内のデータが変更されたり、削除されたり	43.2	36.8	16.4	2.6
(ツ) パソコンや携帯電話が壊れて、ネットが使えない	30.2	42.0	22.6	4.4
(テ) 携帯電話の電池が切れて、ネットが使えない	16.8	28.2	34.8	19.4
(ト) 電波が届かず、携帯電話でネットが使えない	14.4	26.6	37.6	20.6
(ナ) システム的なトラブルでネットワークサービスが使えない	17.6	34.4	36.0	11.2
(ニ) 通信速度が遅くてイライラする	19.4	37.0	31.4	11.4
(ヌ) ネット上で他者の著作権を侵害していると指摘される	23.4	30.0	30.6	15.2
(ネ) ネット上で公開していた自分の著作物を他人に無断で利用される	29.6	28.2	25.0	16.4
(ノ) パソコンや携帯電話の操作を間違える	12.8	31.4	39.6	15.4
(ハ) 勤務中や授業中に私的にネットを利用して注意される	13.0	19.4	33.8	32.4
(ヒ) 出会い系サイトを利用して、犯罪被害に遭う	32.6	17.6	19.0	29.8
(フ) プロフサイトを利用して、犯罪被害に遭う	32.4	19.6	18.8	28.2
(ヘ) パソコン・携帯電話でネットを利用することにより電磁波の影響を受けたり、身体の健康を害する	20.6	34.0	26.8	17.6

問16	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
(ア) 友人(マイミクなど)しか見られない、自分のサイトで悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	30.2	28.0	22.4	17.0
(イ) 誰でも利用できる、自分のサイトで悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	33.2	31.0	18.4	15.2
(ウ) 誰でも利用できる、人のサイトで悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	28.6	34.8	18.4	16.0
(エ) 自分の書き込みに対する反応がない	10.6	23.6	35.4	28.2
(オ) 自分の書き込みについて、違法だと指摘されたり、注意される	21.2	26.6	28.4	21.6
(カ) 相手に嫌われたり、信用を失ったりする	23.6	38.6	21.4	14.4
(キ) 個人情報や会社の機密情報などを誤って、書き込んでしまう	31.0	29.0	20.2	17.8
(ク) 他人により個人情報が勝手に書き込まれる	39.2	34.8	13.4	10.6
(ケ) 自分の管理する場に有害情報を掲載される	34.0	34.0	16.8	13.2
(コ) 自分の書き込みが原因で、ストーキング被害に遭うなど現実の生活が脅かされる	37.6	28.8	16.8	14.8

問17	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
(ア) 自分のIDとパスワードが勝手に使われる	50.2	31.4	11.8	5.0
(イ) 個人情報を登録したネットサービス事業者(販売会社等)から、それらの情報が流出する	50.4	35.6	8.8	3.6
(ウ) 意図せずにネット上の公序良俗に反する有害情報を閲覧してしまう	30.2	36.4	23.8	8.2
(エ) 子どもなど家族がネット上の有害情報を閲覧してしまう	38.4	35.6	16.2	8.4

表 4.2 ネット不安の因子分析(1)

許されてない場合も多く、行為そのものとしては心理的には犯罪に近いものと考えられる（なお、電磁波の影響を受けたり、身体の健康を害するという項目も「被害」に関する不安としてこの因子に含まれた。しかしながら負荷量は高くない）。

第5因子は、ネット利用によるデータの改変削除、著作物無断利用、ネット閲覧情報漏洩、ウイルス被害、著作権侵害、購入・落札したものが届かないといった項目に負荷量が高く、(狭義の)「セキュリティ不安因子」とした。

掲示板、ブログ、SNSなどにおいてコミュニケーションを行うときに起こるかもしれないトラブルについての不安は、二つの因子にまとまった(表 4.3)。

第1因子は、個人情報などの書き込み、パスワードの無断使用、書き込みを原因とするストーカー被害、自分の管理する場への有害情報の掲載、個人情報の漏洩、個人情報が他人に書き込まれる、有害情報の閲覧、家族の有害情報閲覧など「個人情報の流出」と「有害情報の閲覧」に関する項目様々な不安を包含する因子としてまとまった。

第2因子は、「書き込み」に関する不安としてまとまった。様々な場所での自分に対する悪口・暴言の書き込みへの不安に関する項目と自分の書き込みについての指摘・注意に関する項目がまとまったので「書込系不安」因子とした。

この二つの因子分析によって抽出された7つの因子であるが、相関は強い(表 4.4)。高次の因子分析を行えば一因子を構成する。

	因子1 金銭リスク不安	因子2 ハードトラブル不安	因子3 メール関連トラブル不安	因子4 犯罪不安	因子5 セキュリティ不安	
<b>金銭リスク不安</b>						
(ウ) 画像やリンクをクリックしただけで、利用料金を請求される(ワンクリック詐欺)	0.9836	0.0258	-0.0185	0.0005	-0.1108	
(エ) 利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される(架空請求)	0.9531	0.0662	-0.0178	0.0333	-0.1138	
(イ) 金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる(フィッシング詐欺)	0.8134	0.0075	-0.0080	0.0544	0.0049	
(オ) 支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される	0.6246	-0.0230	-0.0614	-0.0479	0.2759	
(ア) 利用料金請求額が予想以上に高額	0.5989	-0.0849	0.0403	0.0831	0.1423	
(キ) 届いた品物の状態が悪かったり、思っていたものと違う	0.4142	0.0778	0.1261	-0.1696	0.2731	
<b>ハードトラブル不安</b>						
(ト) 電波が届かず、携帯電話でネットが使えない	0.0298	0.9716	-0.0044	0.0270	-0.1252	
(テ) 携帯電話の電池が切れて、ネットが使えない	0.0640	0.9619	0.0041	0.0317	-0.1838	
(ナ) システム的なトラブルでネットワークサービスが使えない	0.0005	0.7093	-0.0483	-0.0903	0.2094	
(ツ) パソコンや携帯電話が壊れて、ネットが使えない	-0.0310	0.6108	-0.0683	-0.1089	0.2892	
(ニ) 通信速度が遅くてイライラする	-0.1238	0.5381	-0.0074	-0.0963	0.2924	
(ノ) パソコンや携帯電話の操作を間違える	0.0859	0.4363	0.2172	0.1317	-0.0782	
<b>メール関連トラブル不安</b>						
(ケ) 送ったはずのメールが相手に届かない	-0.0003	-0.0331	0.9644	-0.0364	-0.0796	
(ク) メール宛先を間違える	0.0440	-0.0733	0.8183	-0.0152	0.0289	
(サ) メール返信がない	-0.0180	0.1259	0.7699	0.0113	-0.0549	
(シ) メールやチャット等で伝えたいことが誤解される	-0.0518	0.0446	0.6828	0.0241	0.1187	
(ス) メールの内容を盗み見られる	0.0719	-0.0517	0.5552	0.0253	0.2621	
(セ) 悪戯や不要な広告などの迷惑メール・迷惑コメントが大量に届く	0.2483	-0.0045	0.3307	-0.0045	0.2075	
<b>犯罪不安因子</b>						
(ヒ) 出会い系サイトを利用して、犯罪被害に遭う	-0.0001	-0.1062	-0.0087	1.0256	-0.0010	
(フ) ブログサイトを利用して、犯罪被害に遭う	0.0419	-0.0652	-0.0395	0.9852	0.0274	
(ハ) 勤務中や授業中に私的にネットを利用して注意される	-0.0740	0.2368	0.0911	0.4742	0.1019	
(ヘ) パソコン・携帯電話でネットを利用することにより電磁波の影響を受けたり、身体の健康を害する	-0.0182	0.1379	0.1014	0.3030	0.2306	
<b>セキュリティ不安因子</b>						
(チ) ネットサービスを利用して、パソコン・携帯電話内のデータが改変されたり、削除されてしまう	0.1154	0.0287	0.0851	-0.0211	0.6482	
(ネ) ネット上で公開していた自分の著作物を他人に無断で利用される	-0.0302	0.1431	-0.0125	0.2162	0.5886	
(ク) 自分がどのようなサイトを見ているかを他人に知られてしまう	-0.0005	0.1217	0.1380	-0.0042	0.5879	
(セ) ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う	0.3160	-0.0749	-0.0111	-0.0097	0.5611	
(ス) ネット上で他者の著作権を侵害していると指摘される	0.0102	0.1505	-0.0681	0.3316	0.5059	
(ノ) パソコンやUSBメモリを紛失して、会社の機密情報が漏えいしてしまう	0.1610	-0.0193	0.1149	0.0787	0.4924	
(カ) 購入・落札した品物が届かない	0.3984	-0.0766	0.0833	-0.0660	0.4176	
	固有値	12.5232	3.2983	1.6676	1.3708	1.0256
	累積固有値(%)	43.1835	54.5570	60.3072	65.0342	68.5708

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

このため、抽出された因子得点について、性、年齢、学歴で分散分析を行ったところ、ほぼ同様の傾向をしめした。性別では、基本的に女性の方が不安が強い。おおむね学歴別では学歴が低いほど不安が強い(「短大・高専」において

表 4.3 ネット不安の因子分析(2)

	因子1 情報流出有害情報不安	因子2 書込系ネットトラブル不安
<b>情報流出有害情報トラブル不安</b>		
問16(キ) 個人情報や会社の機密情報などを誤って、書き込んでしまう	0.7844	0.0367
問17(ア) 自分のIDとパスワードが勝手に使われる	0.7511	-0.0452
問16(コ) 自分の書き込みが原因で、ストーキング被害に遭うなど現実の生活が脅かされる	0.7476	0.1776
問16(ケ) 自分の管理する場に有害情報を掲載される	0.7475	0.1698
問17(イ) 個人情報を登録したネットサービス事業者(販売会社等)から、それらの情報が流出する	0.7423	-0.1038
問16(ク) 他人により個人情報が勝手に書き込まれる	0.7084	0.1732
問17(ウ) 意図せずにネット上の公序良俗に反する有害情報を閲覧してしまう	0.6385	0.0566
問17(エ) 子どもなど家族がネット上の有害情報を閲覧してしまう	0.6308	0.0618
問16(カ) 相手に嫌われたり、信用を失ったりする	0.4675	0.3827
<b>書込系不安</b>		
問16(イ) 誰でも利用できる、自分のサイトで悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	-0.0274	0.9788
問16(ウ) 誰でも利用できる、人のサイトで悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	-0.0388	0.9625
問16(ア) 友人(マイミクなど)しか見られない、自分のサイトで悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	-0.0018	0.8959
問16(エ) 自分の書き込みに対する反応がない悪口・暴言を書かれたり、からかわれる	0.0344	0.5903
問16(オ) 自分の書き込みについて、違法だと指摘されたり、注意される	0.2974	0.5389
	8.689	1.323
	62.067	9.451

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

は不安が高いがこれは女性が多いことが影響していると考えられる) (表 4.5)。年齢別では、30代を中心として、20代、30代の不安が低い。それ以上の年齢の場合は年齢に比例して不安が高くなる。また年齢が低くなるほど不安は高くなる。これはインターネットの利用暦が大きく関連しているであろうと考えられる。10代、20代の若い時期から10年間インターネットを利用してきた世代において不安が低く、若い世代はインターネット利用暦が短い故に不安が高いのであろうと考えられる (表 4.6)。

本調査では、上記で問うた具体的なインターネットの不安についての項目と関係すると考えられる項目を探索的に調査項目として加えた。

一つは情報化社会に関する観念である。

因子1は「情報化への不安」に関連する項目により構成される。「インターネットの仕組みは複雑で、わかりにくいと思う」「いまの情報化の進展が早すぎて、わからないことが多すぎる」「インターネットはなんとなくおそろしいものだと思う」「情報化の進展を過信すると、とんでもないことになる」「情報化の進展は、犯罪の温床となる」「インターネットを利用する上でのセキュリティ対策はいくらしても安心しきれものではない」など、漠然としたインターネットや情報化へのネガティブな観念がまとまった。

因子2は「情報化の恩恵」に関連する項目により構成される。「情報化の進展がいま以上に発達すれば、人間はもっと幸福になれる」「情報化の進展は、世の中の問題を解決し明るい未来をもたらす」「情報化の進展による恩恵のほうが、汚染などの弊害よりも重要だ」など、漠然とした情報化のポジティブな観念がまとまった (表 4.7)。

仮説的に、ネットセキュリティに関わる不安と関連すると考えられた情報化社会に関する観念 (表 4.7)、他の様々な観念 (「物事の楽観視」因子、「トラブルの忘却・あきらめ」因子、「トラブルに対する無力感」因子、「運命論」因子、表 4.8 参照) の関係性を考えるため、相関分析を行った。

表 4.4 ネット不安関連因子得点の相関関係

	金銭リスク不安	ハードトラブル不安	メール関連トラブル不安	犯罪不安	セキュリティ不安	書込系不安	情報流出有害情報トラブル不安
金銭リスク不安	0.224 ***	0.622 ***	0.446 ***	0.618 ***	0.493 ***	0.426 ***	
ハードトラブル不安	0.224 ***	0.564 ***	0.496 ***	0.496 ***	0.298 ***	0.341 ***	
メール関連トラブル不安	0.622 ***	0.564 ***	0.544 ***	0.808 ***	0.532 ***	0.515 ***	
犯罪不安因子	0.446 ***	0.496 ***	0.544 ***	0.613 ***	0.620 ***	0.563 ***	
セキュリティ不安因子	0.618 ***	0.496 ***	0.808 ***	0.613 ***	0.618 ***	0.571 ***	
情報流出有害情報トラブル不安	0.493 ***	0.298 ***	0.532 ***	0.620 ***	0.618 ***	0.815 ***	
書込系不安	0.426 ***	0.341 ***	0.515 ***	0.563 ***	0.571 ***	0.815 ***	

表 4.5 ネット不安関連因子得点の分散分析 (性別、年齢別、学歴別)

	男性	女性	中学	高校	短大・高専	大学	大学院
金銭リスク不安	-0.158	0.159 ***	-0.051 b	0.013 b	0.280 b	-0.095 b	-0.714 a ***
ハードトラブル不安	-0.114	0.115 **	0.083	0.085	0.056	-0.110	-0.327
メール関連トラブル不安	-0.147	0.148 ***	0.151	0.043	0.164	-0.145	-0.187
犯罪不安因子	-0.206	0.208 ***	0.137 b	0.046 b	0.240 b	-0.166 b	-0.414 a **
セキュリティ不安因子	-0.121	0.122 **	0.213	-0.057	0.229	-0.080	-0.110
情報流出有害情報トラブル不安	-0.169	0.170 ***	0.168 ab	-0.005 ab	0.307 b	-0.188 a	-0.027 ab **
書込系不安	-0.227	0.228 ***	0.196	-0.058	0.323	-0.149	0.053 **

表注: Pearson の相関係数 (\*\*\*) p<.001

表 4.6 ネット不安関連因子得点の分散分析 (年齢別)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
金銭リスク不安	-0.058 ab	-0.162 a	-0.194 a	0.048 abc	0.204 bc	0.286 c ***
ハードトラブル不安	0.159 b	0.050 ab	-0.266 a	0.005 ab	0.108 ab	0.042 b
メール関連トラブル不安	-0.164 ab	-0.132 abc	-0.203 a	0.137 bed	0.182 cd	0.212 d
犯罪不安因子	0.227 b	-0.029 ab	-0.273 a	-0.090 ab	0.183 b	0.198 b **
セキュリティ不安因子	0.009	0.000	-0.148	-0.025	0.137	0.064
情報流出有害情報トラブル不安	0.048 ab	-0.134 a	-0.191 a	0.050 ab	0.139 ab	0.269 b **
書込系不安	0.043 ab	-0.191 a	-0.197 a	0.106 ab	0.170 b	0.217 b **

表 4.7 情報社会観に関する因子分析

	因子1	因子2	
(キ) インターネットの仕組みは複雑で、わかりにくいと思う	0.7612	0.0420	
(ア) いまの情報化の進展が早すぎて、わからないことが多すぎる	0.7451	-0.0103	
(ク) インターネットはなんとなくおそろしいものだと思う	0.6273	0.0663	
(イ) 情報化の進展を過信すると、とんでもないことになる	0.5407	-0.0715	
(カ) 情報化の進展は、犯罪の温床となる	0.4200	-0.1177	
(ケ) インターネットを利用する上でのセキュリティ対策はいくらしても安心しきれものではない	0.3620	0.0047	
(ニ) 情報化の進展がいま以上に発達すれば、人間はもっと幸福になれる	0.0108	0.8690	
(コ) 情報化の進展は、世の中の問題を解決し明るい未来をもたらす	-0.0075	0.6798	
(オ) 情報化の進展による恩恵のほうが、汚染などの弊害よりも重要だ	-0.0426	0.4016	
	固有値	2.8995	1.7106
	累積固有値 (%)	32.2164	51.2229

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表 4.8 ネット不安に関連すると考えられる観念

	因子1 物事の楽観視	因子2 トラブル 無力感	因子3 トラブル 無力感	因子4 PC故障 運命論	
<b>物事の楽観視</b>					
問33(ウ) いつもものごとの明るい面を考える	0.7370	-0.0262	0.0847	-0.0387	
問33(ア) 結果がどうなるかはっきりしない時は、いつも一番良い面を考える	0.7286	-0.0502	0.0399	0.0166	
問33(エ) 自分の将来に対しては非常に楽観的である	0.5349	0.0620	-0.0300	-0.0630	
問33(オ) 自分に都合よくことが運ぶだろうなどは期待しない	-0.3678	-0.1149	0.0604	-0.0575	
問33(カ) ものごとが自分の思い通りに運んだためしが無い	-0.3002	0.0113	0.1067	-0.0413	
問33(キ) 自分の身に思いがけない幸運が訪れるのを当てにすることは、めったにない	-0.2860	0.0160	0.1003	-0.1118	
<b>トラブルの忘却・あきらめ</b>					
問14(ウ) パソコンが壊れた直後は、バックアップを必死にするが、ある程度たつと、忘れる	0.0115	0.9291	-0.0328	-0.0115	
問14(エ) パソコンがウイルスに感染した直後、セキュリティソフトによるスキャンをかけるが、ある程度たつと忘れる	-0.0034	0.7356	0.0595	-0.0524	
問14(イ) パソコンはそもそも壊れるものだと思っておきあきらめている	0.0395	0.3389	-0.0003	0.1351	
<b>トラブルに対する無力感</b>					
問34(ウ) ウィルスに感染したのしつは、防ぎようがなく、無力だなぁと思うことがある	-0.0497	-0.0075	1.0136	-0.0572	
問34(ウ) パソコンがいきなり壊れてしまうのは、防ぎようがなく、無力だなぁと思うことがある	-0.0363	0.0467	0.5625	0.2251	
<b>PC故障に対する運命論</b>					
問34(イ) パソコンがいきなり壊れてしまうのは、「天からの警告」と思うことがある	0.0057	0.0195	-0.0076	0.9590	
問34(ア) パソコンがいきなり壊れてしまうのは、「運命だ」と思うことがある	0.0544	-0.0080	0.0804	0.5357	
	固有値	2.705	2.179	1.603	1.240
	累積固有値 (%)	20.808	37.569	49.896	59.436

因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法  
 ※ 共通性が低い問14(ア)は除外

析出された金銭リスク不安、ハードトラブル不安、メール操作トラブル不安、犯罪不安因子、セキュリティ不安因子、情報流出有害情報トラブル不安、書込系不安(以下、これらをまとめて「インターネット不安因子群」)は極めて高い内部相関を持っている。そして、これは全体として「情報化への不安」因子と強く結びつく。

ハードトラブル不安因子およびメール操作トラブル不安因子は「情報化への不安」因子と相関関係にあり、また「情報化への不安」因子と負の相関関係にある「情報化への恩恵因子」とも正の相関関係にある。「情報化への不安」とともに「情報化への恩恵」も合わせてつづ抱えていることがわかる。

物事の楽観視やトラブルに関する観念はインターネットに関わる不安因子群とは強い相関関係があるとはいえない。「トラブルへの忘却・あきらめ」因子と「PC故障に対する運命論」因子については、メール関連トラブル不安因子、犯罪不安因子、セキュリティ不安因子と若干、統計的有意な負の相関関係があるものの、全体的には相関関係は強くはない。「トラブルに対する無力感」因子は、書込系不安因子、情報流出有害情報トラブル不安因子と、若干、統計的有意な正の相関関係があるものの、全体的には相関関係は強くはない。

これらトラブルに対する無力感、トラブルの忘却、PC故障に対する運命論は強い正の相関関係で結びついており、また運命論は物事の楽観視と正の相関関係があり、楽観視は特性不安と負の相関関係がある。

またトラブルに対する無力感、トラブルの忘却、PC故障に対する運命論、物事の楽観視はテレビ視聴時間とはあまり関係性をもたない。

まとめると、テレビ視聴やPC利用とはあまり関係がない認識の深いところで、トラブルの

無力感、トラブルに対する忘却、PC故障に対する運命論、物事の楽観視といったあまり情報に左右されない観念がある。

そして、それらが情報化への不安と弱く結びついており、その情報化への不安はインターネット不安因子群と結びつきを持っている。これらを強い関連性の部分のみを抜き出し図で模式化し、表すと図 4.1 のようになる。

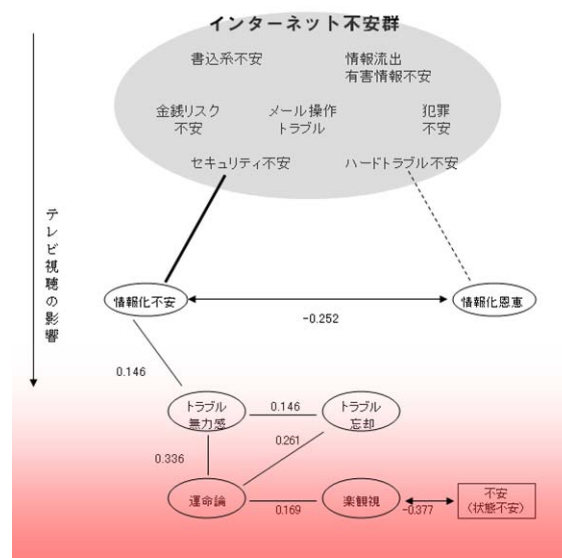


図 4.1 ネット関連不安の構造 (模式図)